



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

中学

国語
一年

十月
第①週



学習を始める前に

①必ず用意してください

・ノート

(学習しやすいように、漢字のノートと国語のノートを分けるなど工夫をすること。)

・筆記用具 (赤ペンも用意すること。)

②注意

・大事だと思うところはノートに書いてください。

・このビデオで使っているスライドを印刷したい人は、最後の**お知らせ**を見てください。

・「ビデオを止めてください。」と言われたら、ビデオを止めて、先生の指示に従ってください。

・必要があるときは、ビデオを止めたり、もう一度ビデオを見たりするなど、それぞれ工夫をください。

先週の宿題から

① 外来語は、一般に片仮名で書き表す。その際、例えば「バイオリン」と書く代わりに、「ヴァイオリン」のように、元の外国語の音により近い書き表し方をする場合がある。どのような言葉に使われるだろうか。例を探してみよう。

デイズニールランド
フオーク
サンドウィッチ
スウェーデン
ストップウォッチ

② わたしたちの身の回りには、和語が多い分野、漢語が多い分野、外来語が多い分野がある。魚の名前、野球の用語やすもうの用語、体の器官の名前など、いろいろな分野の言葉を集めて、語の種類を考えよう。

・魚 サケ・鮭 〈和語・片仮名／漢字〉
・野球 ピッチャー、アウト、エラー 〈外来語〉
・すもう 横綱、東 〈和語〉
・体の器官 胃 腸 心臓 〈漢語〉

③ 元来は同じ言葉を表す言葉でも、語の種類によって、意味やイメージが違ってくる場合がある。「ライス・ご飯・飯」では、どんな違いがあるか考えよう。

・ご飯 食事 炊いた米
・飯 ややぶつきらぼう
・ライス カレーライス

ライスを食べようとはいわない。

大人になれなかった

米倉 齊加年
よねくら まさかね

弟たちに……

僕の弟の名前は、ヒロユキといいます。僕が小学校四年生の時に生まれました。そのころは小学校といわずに、国民学校といっていました。

僕の父は戦争に行っていました。太平洋戦争の真っ最中です。

空襲といって、アメリカのB29という飛行機が毎日のように日本に爆弾を落とすにきました。夜もおちおち寝ていられません。毎晩、防空壕ぼうくうごうという地下室の中で寝ました。

地下室といっても、自分たちで掘った穴ですから、小さな小さな部屋です。僕のうちでは、畳を上げて床の下に穴を掘りました。母と僕で掘ったのです。父は戦争に行って留守なので、家族は、僕と母と祖母と妹と弟の五人です。五人が座ったらそれでいっぱい穴です。

弟は生まれて間もないのですが、いつも泣かないで一人でおとなしく寝ていました。母は穴を掘りながら、ヒロユキがおとなしいから助かる、と言っていました。

*B29 そのころのアメリカの最新型長距離爆撃機ばくげいき

〈新出漢字〉

空襲しゆう

爆弾ばくだん

寝るね

掘るほ

畳たたみ



そのころは食べ物が多分になかったので、母は僕たちに食べさせて、自分はあまり食べませんでした。でも弟のヒロユキには、母のお乳が食べ物です。母は自分が食べないので、お乳がでなくなりました。ヒロユキは食べるものがありません。おもゆといっておかゆのもつと薄いのを食べさせたり、やぎのミルクを遠くまで買いに行って飲ませたりしました。

でも、ときどき配給がありました。ミルクが一缶、それがヒロユキの大切な食べ物でした……。

みんなにはとうていわからないでしょうが、そのころ、甘いものはぜんぜんなかったのです。あめもチョコレートもアイスクリームも、お菓子もなんにもないころなのです。食いしん坊だった僕には、甘い甘い弟のミルクは、よだれが出るほど飲みたいものでした。

母は、よく言いました。ミルクはヒロユキのご飯だから、ヒロユキはそれしか食べられないのだからと――。

でも、僕はかくれて、ヒロユキの大切なミルクを盗み飲みしてしまいました。それも、何回も……。

僕にはそれがどんなに悪いことか、よくわかっていたのです。でも、僕は飲んでしまったのです。僕は弟がかわいくてかわいくてしかたなかったのですが、……それなのに飲んでしまいました。

***配給 戦争中、不足した物資を政府が統制し、品物などを一定の割合で消費者に配ること**

〈新出漢字〉

一缶 かん

お菓子 か

盗み飲み ぬす



あまり空襲がひどくなってきたので、母は**疎開**しようと言いだしました。それである日、祖母と四歳の妹に留守番を頼んで、母が弟をおんぶして僕と三人で、しんせきのいる田舎へ出かけました。ところが、しんせきの人は、はるばる出かけてきた母と弟と僕を見るなり、うちには食べ物はないと言いました。僕たちは食べ物ももらいに行ったのではなかったのです。引越しの相談に行ったのに。母はそれを聞くなり、僕に帰ろうと言って、くると後ろを向いて帰りました。

その時の顔を。僕は今も忘れません。強い顔でした。でも悲しい悲しい顔でした。僕はあんなに美しい顔を見たことはありません。僕たち子供を必死に守ってくれる母の顔は、美しいです。僕はあのとこのことを思うと、いつも胸がいつぱいになります。

母は行ったこともない山の中の親切な人に頼んで、やっと疎開先が決まりました。とりあえず必要な荷物だけを持って、引越しすることになりました。それでも、荷物は馬車一台ありました。僕と母と祖母と妹、それに弟は、その馬車の荷物の上に座って、ゆらりゆらり揺れながら、朝、家を出て、南にむかって旅立ちました。福岡から南へ二十キロくらい行った、石釜という山あいの村です。

馬車の上で昼のおむすびを食べ、昼すぎには、きれいな溪流に沿って山路へかかりました。美しい青空、桃の花が咲く山村、橋からはあゆの泳ぐのが見られます。生まれて初めてみる、**桃源郷**でした。

これから始まる苦しい生活など、僕にはまだ分からない年ごろでした。ですから、毎日あのあゆをとっておかずには母が喜ぶだろうと思ったりして、これからの生活に胸をはずませました。

***疎開** 空襲などによる戦災から身を守るため、都市の住民が安全な地方へ引越すこと。

***桃源郷** 俗世間を離れたすばらしい別世界。

〈新出漢字〉

疎開

溪流

咲く



僕たちがお世話になる農家は、すぐ裏の山が頭の上におおいかぶさるような山すそにありました。その農家の庭に面した六畳間の一部屋を借りました。家の前の溪流には飛び石が対岸に続き、大雨の日はわたれませんが。下流の橋をわたって学校に行きました。

母は生まれて初めて田植えを手伝い、昼に出されるご飯を僕たちに残して、持って帰ってきました。

僕たち疎開者には配給もありませんので、母は自分の着物を持っていき、近所の農家の人たちをお願いして、米と交換してもらっていました。

疎開しても、ヒロユキのお乳には困りました。隣村にやぎを飼っている農家があると聞いては、母は着物をふろしきに包んで出かけました。

ヒロユキをおんぶして、僕はよく川へ遊びに出かけました。僕は弟が欲しかったので、よくかわいがりました。

ヒロユキは病気になりました。僕たちの村から三里くらい離れた町の病院に入院しました。僕は学校から帰ると、毎日、まきと食べ物で祖母に用意してもらい、母と弟のいる病院に、バスに乗って出かけました。

十日くらい入院したでしょうか。

ヒロユキは死にました。

暗い電気の下で、小さな小さな口に綿にふくませた水を飲ませた夜を、僕は忘れられません。泣きもせず、弟は静かに息をひきとりました。母と僕に見守られて、弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。

*三里 一里は、約三・九キロメートル

〈新出漢字〉

交換

隣村

死んだ弟を母がおんぶして、僕は片手にやかん、そして片手にヒロユキの身の回りのものを入れた小さなふろしき包みを持って、家に帰りました。

白い乾いた一本道を、三人で山の村に向かって歩き続けました。バスがありました。母は弟が死んでいるのでほかの人に遠慮したのでしよう、三里の道を歩きました。

空は高く高く青く澄んでいました。ブウーンブウーンというB29の独特のエンジン音がして、青空にきらつきらつと機体が美しく輝いています。道にも畑にも、人影はありませんでした。歩いているのは三人だけです。

母はときどきヒロユキの顔に飛んでくるはえを手ではらいながら、言いました。

「ヒロユキは幸せだった。母と兄とお医者さん、看護婦さんにみとられて死んだのだから。空襲の爆撃で死ねば、みんなばらばらで死ぬから、もつとかわいそうだった。」

家では祖母と妹が、泣いて待っていました。部屋を貸してくださっていた農家のおじさんが、杉板を削って小さな小さな棺を作っていてくださいました。弟はその小さな小さな棺に、母と僕の手で寝かされました。小さな弟でしたが、棺が小さすぎて入りませんでした。

母が、大きくなっていったんだね、とヒロユキのひざを曲げて棺に入れました。そのとき、母は初めて泣きました。

父は、戦争に行つてすぐ生まれたヒロユキの顔を、とうとう見ないままでした。

弟が死んで九日後の八月六日に、ヒロシマに原子爆弾が落とされました。そして三日後にナガサキに。

そして、六日たった一九四五年八月十五日に戦争は終わりました。

僕はひもじかったことと、弟の死は一生忘れません。

〈新出漢字〉

澄む す

爆撃 ゲキ

杉板 すぎ

削る けず

棺 カン

大人になれなかった

米倉 齊加年
よねくら まさかね

弟たちに……

僕の弟の名前は、ヒロユキといいます。僕が小学校四年生の時に生まれました。そのころは小学校といわずに、国民学校といっていました。

僕の父は戦争に行っていました。太平洋戦争の真っ最中です。

空襲といって、アメリカのB29という飛行機が毎日のように日本に爆弾を落とすにきました。夜もおちおち寝てられません。毎晩、防空壕ぼうくうごうという地下室の中で寝ました。

地下室といっても、自分たちで掘った穴ですから、小さな小さな部屋です。僕のうちでは、畳を上げて床の下に穴を掘りました。母と僕で掘ったのです。父は戦争に行つて留守なので、家族は、僕と母と祖母と妹と弟の五人です。五人が座ったらそれでいっぱい穴です。

弟は生まれて間もないのですが、いつも泣かないで一人でおとなしく寝ていました。母は穴を掘りながら、ヒロユキがおとなしいから助かる、と言っていました。

〈新出漢字〉

空襲しゅう

爆弾ぼくだん

寝るね

掘るほ

畳たたみ

*B29 そのころのアメリカの最新型長距離爆撃機
重要語句の確認

真っ最中 一番、盛んなこと。

おちおち 落ち着いている様子。



そのころは食べ物が多分になかったの、母は僕たちに食べさせて、自分はあまり食べませんでした。でも弟のヒロユキには、母のお乳が食べ物です。母は自分が食べないので、お乳がでなくなりました。ヒロユキは食べるものがありません。おもゆといっておかゆのもつと薄いのを食べさせたり、やぎのミルクを遠くまで買いに行って飲ませたりしました。

でも、ときどき配給がありました。ミルクが一缶、それがヒロユキの大切な食べ物でした……。

みんなにはとうていわからないでしょうが、そのころ、甘いものはぜんぜんなかったのです。あめもチョコレートもアイスクリームも、お菓子もなんにもないころなのです。食いしん坊だった僕には、甘い甘い弟のミルクは、よだれが出るほど飲みたいものでした。

母は、よく言いました。ミルクはヒロユキのご飯だから、ヒロユキはそれしか食べられないのだからと――。

でも、僕はかくれて、ヒロユキの大切なミルクを盗み飲みしてしまいました。それも、何回も……。

僕にはそれがどんなに悪いことか、よくわかっていたのです。でも、僕は飲んでしまったのです。僕は弟がかわいくてかわいくてしかたなかったのですが、……それなのに飲んでしまいました。

〈新出漢字〉

一缶^{カン}

お菓子^{カシ}

盗み飲み^{ぬす}

*配給 戦争中、不足した物資を政府が統制し、品物などを一定の割合で消費者に配る



場面1 〈弟がうまれたころ、戦争中の生活〉

① あらすじをまとめましょう

② 登場人物の行動と心情

登場人物の行動	心情
母は僕たちに食べさせて、自分 はあまり食べませんでした。	子どもには食べ物を与えたいと いう、
僕はかくれて、ヒロユキの大切 なミルクを盗み飲みしてしま いました。	ヒロユキにとって大切な食べ物 であるミルクをのんでしまった ことへの

重要語句の確認

真っ最中
おちおち

一番、盛んなこと。
落ち着いている様子。

*いつも「ない」のような、打ち消す言
葉をつけて使われる。



場面1 〈弟がうまれたころ、戦争中の生活〉

① あらすじをまとめましょう
太平洋戦争の真っ最中に弟のヒロユキが生まれた。そのころは毎日空襲を受け、食べ物がなかった。母のお乳が出なくなり、ヒロユキの食べるものがなくなった。僕は、ときどきあるヒロユキの配給のミルクを盗み飲みしてしまった。

② 登場人物の行動と心情

登場人物の行動	心情
母は僕たちに食べさせて、自分 はあまり食べませんでした。	子どもには食べ物を与えたいと いう、 (母の愛情)
僕はかくれて、ヒロユキの大切 なミルクを盗み飲みしてしま いました。	ヒロユキにとって大切な食べ物 であるミルクをのんでしまった ことへの (罪悪感) (悪いことをしたという罪の意識)

重要語句の確認

真っ最中
おちおち

一番、盛んなこと。
落ち着いている様子。

*いつも「ない」のような、打ち消す言
葉をつけて使われる。



あまり空襲がひどくなってきたので、母は疎開しようと言いだしました。それである日、祖母と四歳の妹に留守番を頼んで、母が弟をお

んぶして僕と三人で、しんせきのいる田舎へ出かけました。ところが、しんせきの人は、**はるばる**出かけてきた母と弟と僕を見る**なり**、うちに**は食べ物はないと言いました**。僕たちは**食べ物をもらいに行つたのでは**なかつたのです。引越しの相談に行つたのに。母はそれを聞くなり、僕に帰ろうと言って、くると後ろを向いて帰りました。

その時の顔を。僕は今も忘れません。強い顔でした。でも悲しい悲しい顔でした。僕はあんなに美しい顔を見たことはありません。僕たち子供を**必死**に守ってくれる母の顔は、美しいです。僕はあのとこのことを思うと、いつも胸がいつぱいになります。

母は行つたこともない山の中の親切な人に頼んで、やっと疎開先が決まりました。とりあえず必要な荷物だけを持って、引越しすることになりました。それでも、荷物は馬車一台ありました。僕と母と祖母と妹、それに弟は、その馬車の荷物の上に座つて、ゆらりゆらり揺れながら、朝、家を出て、南にむかつて旅立ちま

した。福岡から南へ二十キロくらい行つた、石釜いしがまという山あいの村です。馬車の上で昼のおむすびを食べ、昼すぎには、きれいな溪流に沿つて山路へかかりました。美しい青空、桃の花が咲く山村、橋からはあゆの泳ぐのが見られます。生まれて初めてみる、**桃源郷**でした。

これから始まる苦しい生活など、僕にはまだ分からない年ごろでした。ですから、毎日あのおゆをとつておかずにすれば母が喜ぶだろうと思つたりして、これからの生活に**胸をはずませました**。

〈新出漢字〉

疎開

溪流

咲く

*疎開 空襲などによる戦災から身を守るため、都市の住民が安全な地方へ引越すこと。

*桃源郷 俗世間を離れたすばらしい別世界。

重要語句の確認

はるばる 遠くはなれた所から来るようす。遠くはなれた所へいくようす。

・・・なり すぐとすぐ。

必死 死ぬかくごで全力でかんばるさま。

胸をはずませる 喜びや期待などで心が落ち着かなくなる。胸をわくわくさせる。

僕たちがお世話になる農家は、すぐ裏の山が頭の上におおいかぶさるような山すそにありました。その農家の庭に面した六畳間の一部屋を借りました。家の前の溪流には飛び石が対岸に続き、大雨の日はわたれませんが、下流の橋をわたって学校に行きました。母は生まれて初めて田植えを手伝い、昼に出されるご飯を僕たちに残して、持って帰ってきました。

僕たち疎開者には配給もありませんので、母は自分の着物を持っていていき、近所の農家の人たちにお願いして、米と交換してもらっていました。

疎開しても、ヒロユキのお乳には困りました。隣村にやぎを飼っている農家があると聞いては、母は着物をふろしきに包んで出かけました。

ヒロユキをおんぶして、僕はよく川へ遊びに出かけました。僕は弟が欲しかったので、よくかわいがりました。

〈新出漢字〉

交換^カ

隣村^{となり}

〈新出音訓〉

欲しい



場面2 〈田舎へ疎開〉

① あらすじをまとめましょう

② 登場人物の行動と心情

登場人物の行動	心情
田舎のしんせきに引越しの相談に行ったのに、食べ物はないと言われた。 母は田植えを手伝ってご飯をもらったり、自分の着物を米と交換してもらったりした。	しんせきの冷たい態度への子どもをどうにかして大きくしたい、育てたいという

重要語句の確認

はるばる 遠くはなれた所から来るようす。遠くはなれた所へいくようす。

・・・なり くするとすぐ。

必死 死ぬかくごで全力でかんばるさま。

胸をはずませる 喜びや期待などで心が落ち着かなくなる。胸をわくわくさせる。

場面2 〈田舎へ疎開〉

① あらすじをまとめましょう
空襲がひどくなり、僕たちは田舎の山の中に疎開した。米とヒロユキのお乳のために、母は着物を持って行って交換してもらった。僕は弟をとともかわいがった。

② 登場人物の行動と心情

登場人物の行動	心情
田舎のしんせきに引越しの相談に行ったのに、食べ物はないと言われた。 母は田植えを手伝ってご飯もらったり、自分の着物を米と交換してもらったりした。	しんせきの冷たい態度への (深い悲しみ) 子どもをどうにかして大きくしたい、育てたいという (母の意志の強さと深い愛情)

重要語句の確認

はるばる 遠くはなれた所から来るようす。遠くはなれた所へいくようす。

・・・なり くするとすぐ。

必死 死ぬかくごで全力でかんばるさま。

胸をはずませる 喜びや期待などで心が落ち着かなくなる。胸をわくわくさせる。

ヒロユキは病気になりました。僕たちの村から三里くらい離れた町の病院に入院しました。僕は学校から帰ると、毎日、まきと食べ物を祖母に用意してもらい、母と弟のいる病院に、バスに乗って出かけました。

十日くらい入院したでしょうか。

ヒロユキは死にました。

暗い電気の下で、小さな小さな口に綿にふくませた水を飲ませた夜を、僕は忘れられません。泣きもせず、弟は静かに息をひきとりました。母と僕に見守られて、弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。死んだ弟を母がおんぶして、僕は片手にやかん、そして片手にヒロユキの身の回りのものを入れた小さなふろしき包みをも持って、家に帰りました。

白い乾いた一本道を、三人で山の村に向かって歩き続けました。バスがありました。母は弟が死んでいるのでほかの人に遠慮したのでしよう、三里の道を歩きました。

空は高く高く青く澄んでいました。ブウンブウンというB29の独特のエンジン音がして、青空にきらきらと機体が美しく輝いています。道にも畑にも、人影はありませんでした。歩いているのは三人だけです。

母はときどきヒロユキの顔に飛んでくるはえを手ではらいながら、言いました。

「ヒロユキは幸せだった。母と兄とお医者さん、看護婦さんにみとられて死んだのだから。空襲の爆撃で死ねば、みんなばらばらで死ぬから、もつとかわいそうだった。」

〈新出漢字〉

澄む

爆撃

*三里 一里は、約三・九キロメートル

重要語句の確認

みとる 病人のそばにいて世話をする。また、死期まで見守る。

家では祖母と妹が、泣いて待っていました。部屋を貸してください。さつていた農家のおじさんが、杉板を削って小さな小さな棺を作っていてくださいました。弟はその小さな小さな棺に、母と僕の手で寝かされました。小さな弟でしたが、棺が小さすぎて入りませんでした。

母が、大きくなっていたんだね、とヒロユキのひざを曲げて棺に入れました。そのとき、母は初めて泣きました。

父は、戦争に行つてすぐ生まれたヒロユキの顔を、とうとう見ないままでした。

弟が死んで九日後の八月六日に、ヒロシマに原子爆弾が落とされました。そして三日後にナガサキに。

そして、六日たった一九四五年八月十五日に戦争は終わりました。僕はひもじかったことと、弟の死は一生忘れません。

〈新出漢字〉

杉板すぎ

削るけず

棺か

重要語句の確認

ひもじい おなかがすいている。

米倉 齊加年



場面3 〈弟の病気・弟の死〉

① あらすじをまとめましょう

② 登場人物の行動と心情

登場人物の行動	心情
<p>弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。</p> <p>「ヒロユキは幸せだった。」</p>	<p>食べ物（ヒロユキにとってはお乳）は十分のないために弟が死んだことへの その原因の戦争への 母の気持ち</p>
<p>そのとき、母は初めて泣きました。</p>	<p>母の気持ち *ヒント 食べ物がないのに、 ヒロユキが大きくなったことに 気づきどう感じたのか。</p>

重要語句の確認

みとる 病人のそばにいて世話をする。また、死期まで見守る。
ひもじい おなかがすいている。

場面4 〈弟が死んでから〉

① あらすじをまとめましょう。

場面3 〈弟の病気・弟の死〉

① あらすじをまとめましょう
 病気になったヒロユキは十日間ほど入院して死んだ。病名はなく
 栄養失調だった。小さな弟だったが、棺が小さすぎて入らなかった。
 母は、大きくなっていったんだねと言い、初めて泣いた。

② 登場人物の行動と心情

登場人物の行動	心情
弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。	食べ物（ヒロユキにとってはお乳）は十分のないために弟が死んだことへの （悲しみ） その原因の戦争への （にくしみ）
「ヒロユキは幸せだった。」	母の気持ち （空襲の爆弾で死ぬのに比べれば、ヒロユキは幸せだったと、自分に言い聞かせている。）
そのとき、母は初めて泣きました。	母の気持ち ＊ヒント 食べ物が無いのに、ヒロユキが大きくなったことに気づきどう感じたのか。 （食べ物が無いのに、ヒロユキが大きくなっていたのを知り、大きな悲しみがこみ上げてきた。）

重要語句の確認

みとる 病人のそばにいて世話をする。また、死期まで見守る。
 ひもじい おなかがすいている。

場面4 〈弟が死んでから〉

① あらすじをまとめましょう。
 ヒロシマ、ナガサキに原子爆弾が落とされ、一九四五年八月十五日に戦争が終わった。ひもじかったことと、弟の死は忘れない。

漢字の学習

読み方を書きましょう。

- (1) 空襲がひどくなってきた。
- (2) 日本に爆弾を落としに来た。
- (3) 地下室の中で寝る。
- (4) 自分たちで掘った穴。
- (5) 畳を上げて穴を掘った。
- (6) ミルクが一缶届く。
- (7) お菓子は何もない時代。
- (8) 大切なミルクを盗み飲んだ。

漢字の学習

答え合せをしましょう。

- (1) 空襲がひどくなってきた。
くうしゅう
- (2) 日本に爆弾を落としに来た。
ばくだん
- (3) 地下室の中で寝る。
ねる
- (4) 自分たちで掘った穴。
ほった
- (5) 畳を上げて穴を掘った。
たたみ
- (6) ミルクが一缶届く。
ひとかん
- (7) お菓子は何もない時代。
おかし
- (8) 大切なミルクを盗み飲んだ。
ねすみ

重要語句の確認

真つ最中

一番、盛んなこと。

おちおち

落ち着いている様子。

*いつも「ない」のような、打ち消す言葉をつけて使われる。

はるばる

遠くはなれた所から来るようす。遠くはなれた所へいくようす。

・・・なり

くするとすぐ。

必死

死ぬかくごで全力でかんばるさま。

胸をはずませる

喜びや期待などで心が落ち着かなくなる。胸をわくわくさせる。

みとる

病人のそばにいて世話をする。また、死期まで見守る。

ひもじい

おなかがすいている。

宿題

次回の授業までにやる勉強です。

1. 漢字

今日の授業で書いた新出漢字の練習。

文章で書けるように、新出漢字以外の漢字も復習のため練習しましょう。

2. 音読 「大人になれなかった弟たちに・・・」を 読みましょう。

3. 重要語句など

重要語句や、戦争の話に使われる言葉の意味を確認しておきましょう。



お知らせ

1. 質問があったら、メールをください。すぐお返事します。
 2. 自分が書いた文章を見てもらいたいときはメールで送って
くれば、直して送り返します。
- ❖ メールアドレスは、 Akiko@JPNCClass.com です。
 - ❖ このビデオのスライドはWebページ <http://JPNCClass.com> から
ダウンロードや印刷ができます。



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

中学

国語 一年

年間学習表



身につけたい力

7月	6月	5月	4月	
		発見したことを伝えよう スピーチの構成を考え、 メモをもとにスピーチ をしよう。	野原はうたう 好きな詩を、登場する 生き物の気持ちになっ て朗読しよう。	話す／聞く 一年間の学習を通して 先生の話を聞き、学習 を進めよう。
文章の推敲と原稿用紙の 使い方 推敲のポイントと原稿 用紙のうえでの推敲の 仕方を知ろう。原稿用 紙の決まりを確かめよ う。	情報を文章にまとめよう 自分の身の回りのこと について、情報を集め、 文章にまとめよう。	発見したことを伝えよう スピーチの構成を考え、 スピーチメモを書こう。	野原はうたう 自分の好きな生き物を 選んで、詩を作ろう。	書く 新聞記事 記事の要約をし、記事 に対する自分の意見 ^{コメント} や感想を書こう。
光と風からもらった贈り 物 筆者が「高原」のどん なところに、言葉の豊 かさを感じているかを とらえよう。	クジラたちの声 クジラの情報伝達に関 する二つの問いをおさ え、音の役割、海中で の情報伝達に音が最適 である理由をつかもう。	ちよつと立ち止まって 各図の説明を通して、 ものの見方について、 筆者が述べていること をとらえよう。	野原はうたう 作者が生き物の姿にど んな思いを感じている かを、読み取ろう。 にじの見える橋 少年の行動や心情に着 目し、にじを見る前と あとの気持ちの変化を とらえよう。	読む 新聞記事 新聞記事を読もう。
混同しやすい漢字 形が似ていたり音が同 じであったりする漢字 を知り、間違えて使わ ないように気をつけよ う。	言葉の単位 文節や単語に区切る方 法を知ろう。	漢字の組み立てと部首 漢字の部分のよび名と 表すものを覚えよう。	話し言葉と書き言葉 話し言葉と書き言葉の 違いをおさえよう。	言葉

	3月	2月	1月	
				話す／聞く
		心に残る思いで読み手の興味を引くように、発表しよう。		
	言葉を調べよう 言葉についての課題を調べ、資料にまとめる。	心に残る思いで今までの経験で、自分が成長したと思えることや、変わったと思うことを思い出して、文章にまとめよう。	江戸からのメッセージ 江戸の知恵を今の時代に生かせることは何か考え、それをまとめよう。	書く
	胸の底の人と言葉たち 人や言葉との出会いを読み取り、筆者がわたしたちに願うことは何かを考えよう。	少年の日の思い出 登場人物の心情の移り変わりをとらえ、生き方を考えよう。	江戸からのメッセージ リサイクルを徹底した江戸っ子の生活と、そこから導かれた筆者の主張をつかもう。	読む
〈一年生の漢字〉 一年生で習った漢字の復習をしよう。		漢字の成り立ち 漢字の成り立ちをおさえ、成り立ちで意味や読みを類推できることを知ろう。	辞典を活用しよう 国語辞典、漢和辞典の使い方を知り、実際に様々な言葉を調べよう。	言葉
		指示する語句と接続する語句 指示する語句と接続する語句の種類や用法を理解しよう。		